

株主・投資家の皆様へ
リンテックウェーブ

WAVE

LINTEC

*Linking
your
dreams*

SEPTEMBER 2019

76

● 株主・投資家の皆様へ

代表取締役社長
社長執行役員 西尾 弘之

● スペシャルレポート

座談会 社長×独立役員
コーポレートガバナンスの強化と
持続的成長の実現を目指して

第126期
(2020年3月期)
第1四半期
決算情報

証券コード：7966

WAVE

SEPTEMBER 2019 **76**

目次

2 連結業績推移

3 株主・投資家の皆様へ

代表取締役社長
社長執行役員 **西尾 弘之**

4 スペシャルレポート

座談会 社長×独立役員
コーポレートガバナンスの強化と
持続的成長の実現を目指して

8 トピックス

9 新聞広告シリーズ

10 決算情報

12 セグメント情報

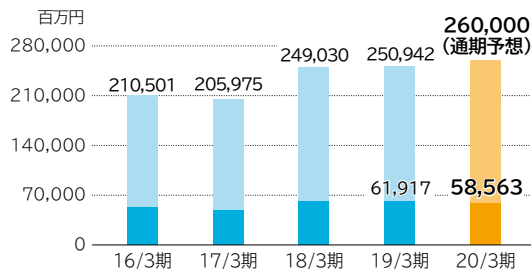
15 株式情報

(免責事項)

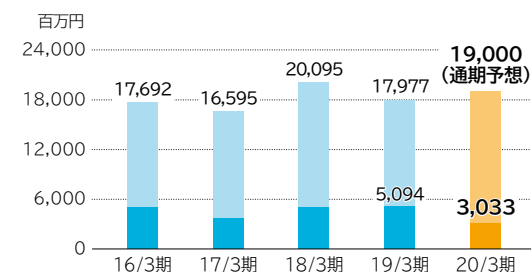
業績予想などの将来に関する記述は、当社が現在入手している情報および合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績などはさまざまな要因により大きく異なる可能性があります。

連結業績推移

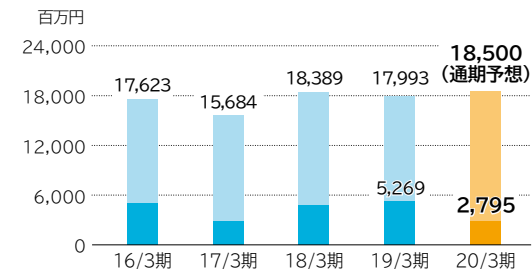
売上高



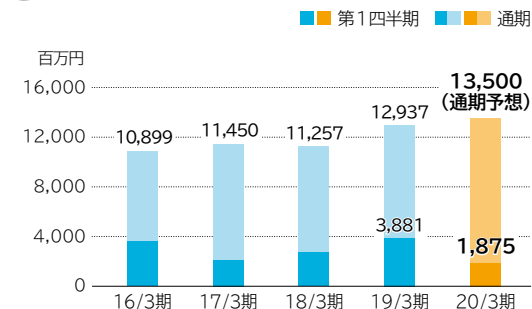
営業利益



経常利益



親会社株主に帰属する四半期(当期)純利益



▶ 2020年3月期第1四半期連結累計期間（前年同期比）

売上高

58,563百万円（5.4%減）

営業利益

3,033百万円（40.5%減）

経常利益

2,795百万円（46.9%減）

親会社株主に帰属する四半期純利益

1,875百万円（51.7%減）



にしお ひろゆき
代表取締役社長
社長執行役員 **西尾 弘之**

平素は格別のご高配を賜り、厚く御礼申し上げます。

当社グループの2020年3月期第1四半期連結累計期間の業績は、上記のとおりとなりました。売上高は、半導体・電子部品関連市場の生産調整の影響を受けたことなどにより減少しました。また営業利益は、売上高の減少や原燃料価格の上昇などにより、大幅な減少となりました。

今後の見通しにつきましては、エレクトロニクス関連市場の回復が年明け以降になるものと見込まれるほか、米中貿易摩擦や英国のEU離脱問題、日韓関係の悪化の影響が懸念されるなど、当社グループを取り巻く事業環境は不透明な状況が続くと予想しております。そのような中、さらなる

拡販やコスト削減に引き続き努めていくとともに、来期からスタートする新中期経営計画に向けて、海外事業や研究開発力の一層の強化を図るなど、持続的成長への足掛かりを築いてまいります。

株主・投資家の皆様には、引き続きご支援のほどよろしくお願い申し上げます。

▶ 2020年3月期 連結業績予想（前年同期比）

売上高	2,600億円 （3.6%増）
営業利益	190億円 （5.7%増）
経常利益	185億円 （2.8%増）
親会社株主に帰属する当期純利益	135億円 （4.3%増）

座談会 社長×独立役員

コーポレートガバナンスの強化と 持続的成長の実現を目指して



リンテックは2015年に企業統治の体制として監査等委員会設置会社に移行し、以来、二人の独立役員である社外取締役（監査等委員）が、取締役会の監督機能強化や実効性向上の面で大きな役割を果たしてきました。さらに2018年、取締役会の諮問機関として代表取締役社長と独立役員から構成される「コーポレートガバナンス委員会」を設置。役員の報酬および選解任について取締役会への助言・提言を行い、客観性と透明性のさらなる向上を図っています。

今回、当社の企業統治の課題や今後の経営の方向性などについて、同委員会の委員を務める大岡哲氏と大澤加奈子氏、そして社長の西尾弘之による座談会を実施しましたので、その内容をお伝えします。

大岡 哲（おおおか さとし）

1975年に日本開発銀行入行。2002年に日本政策投資銀行（現 株式会社日本政策投資銀行）審議役に就任するなど、長年政策金融に携わる。2012年に当社社外取締役（監査等委員）に就任し、2015年より当社社外取締役（監査等委員）。2018年から当社コーポレートガバナンス委員会の委員長を兼務。

大澤 加奈子（おおさわ かなこ）

1998年に弁護士登録、梶谷総合法律事務所入所。2005年に米国・ニューヨーク州の弁護士資格を取得し、国内外の企業法務に携わる。2015年に当社社外取締役（監査等委員）に就任し、2018年から当社コーポレートガバナンス委員会の委員を兼務。

「至誠」がガバナンスの根幹

西尾 昨今、企業不祥事が頻発していますが、企業活動の大前提はコンプライアンスであり、真面目に、かつ誠実に日々の業務に取り組むことだと考えています。私は事あるごとに従業員に対し、当社の社是である「至誠と創造」の実践を呼びかけてきました。しかし、社内だけでは気づかない課題や不十分な点を見つけ出して対処していくためには、外部の客観的な視点が必要となります。独立役員のお二人には、日頃からいろいろと有益なご指摘を頂いていますが、本日も忌憚のないお話を伺えればと思っています。

大岡 社是にある「至誠」という言葉は、リンテックに根付いた企業風土そのものだと感じています。最近、多くの企業でコーポレートガバナンス・コード*への対応が課題となっていますが、当社の場合、この精神が徹底されていることで、同コードへの対応も実体を伴ったものになっていると思います。

大澤 私も、リンテックは社是に対してきわめて真面目に取り組んでおられるという印象を持っています。「社是の実践を」という強いメッセージをトップが発して、その問題意識が社内に浸透する中、当社ならではの

遵法経営が実現しているのではないのでしょうか。コーポレートガバナンス・コード自体は罰則を伴うものではありませんが、それが目指すもの、自分たちにとって意味するものを、根幹の社是のレベルから主体的に捉え直したうえで、一つ一つ丁寧な姿勢で取り組んでいると感じます。

社外役員が高める取締役会の実効性

西尾 独立役員の立場として、現在の当社の役員構成について、ガバナンスの観点からどのようにお考えですか。

大岡 独立役員の人数を今より増やすべきとの見方はあると思いますが、私自身としては、今の状態で特に不都合が生じているとは感じていません。ただリンテックの場合、取締役と執行役員の役割分担を再検討して、取締役全体の人数を見直しても良いのではという気はしています。

大澤 現状、取締役会での発言の際に、私のほかに独立役員がもう一人いるというのは非常に心強く、ありがたいと感じています。一口に独立役員といっても、大岡さんと私のバックグラウンドはかなり違いますので、大岡さんの意見を聞いて、なるほどと思うこともあります。また、私たち以外に非独立とはいえ社外役員の方が

* コーポレートガバナンス・コード：金融庁と東京証券取引所が定めた、上場企業が守るべき行動規範を示した企業統治の指針

お二人いて、多様な視点からの意見を頂いていると思っています。

大岡 大澤さんが言われたように、当社の非独立の社外役員は、実際には私たちと同じくらい客観性を持って意見されていますから、現状の4人の社外取締役という体制でしっかり機能しているように思います。

西尾 ところで、取締役会の雰囲気はいかがですか。社外の方が意見を言いやすい雰囲気になっているのでしょうか。

大岡 これまで外部の視点で自由に発言させてもらっていますし、社内役員の方からは「社外取締役がその場にいるというだけで違う」といった声も頂いています。私はかつて銀行で企業分析や資産分析などに携わり、グローバル化時代の企業の国際競争力についても多少なりとも勉強してきましたので、そうした経験から気づいたことや疑問点などをお伝えするようにしています。

大澤 私の場合、M&Aや企業法務に携わる弁護士としての専門的な意見を求められますが、それに加えて、投資家の方々と同じ目線で「これはどうしてですか」「その投資のリスクとリターンは見合っているのですか」といった素朴な疑問を社内の方にぶつけて、納得できる説明を引き出すことも大切な役割だと思っています。

西尾 取締役会でお二人のご意見をいろいろとお聞きして、改めて気づかされたことや、「その視点は抜けていたな」という反省をしたことは何度もあります。

大澤 私たちの発言をきっかけに、社内役員の間で事業部門間の垣根を越えた意見交換が始まるような展開が望ましいと思います。それが正常なやり取りであり、その議論の呼び水として私たちが機能していきたいと考えています。

持続的成長に向けて

西尾 今後、当社が持続的な成長を実現するうえで、特に何が必要だとお考えでしょうか。

大岡 やはりグローバル経営の着実な推進です。そのためにはグローバル人材の育成や海外子会社のマネジメントにきちんと取り組む必要があります。

大澤 同感です。国内市場が成熟化する中、海外での売上伸長は不可欠ですから、グローバル人材をどう育てていくか、そして海外子会社のガバナンスをどう強化していくかが大きな課題になってくると思います。

西尾 人材育成という面では、従業員を積極的に海外に出向させ、経験を積ませるのが一番の近道です。日本人スタッフ

を各拠点に配置し、また地域統括会社を活用しながらリスクを迅速に、かつ確実に吸い上げる体制、そして重要案件を継続してモニタリングしていく体制を構築していきたいと考えています。

大岡 もう1点挙げるなら、やはり研究開発ですね。高度な分析機器や大規模な試作設備、そしてしっかりした組織体制を持っているので、今後も研究開発に力を

入れて、収益性の高い新製品を継続的に市場に投入していかねばなりません。

西尾 当社は現在、200人以上の研究スタッフを擁し、海外拠点にも多くの人員を派遣しています。また、毎年80億円規模の研究開発投資を実施していますが、これは将来の成長に不可欠なことから、今後も引き続き拡充していきたいと考えています。本日はありがとうございました。



お知らせ

「統合報告書2019」を発行

このたび、投資家向けの年次報告書である「統合報告書2019」を発行しました。2019年3月期の決算情報をはじめ、今回の座談会のより詳しい内容や、経営層および各事業部門トップのメッセージ、海外事業や研究開発、そしてESG（環境・社会・ガバナンス）への取り組みなど幅広い情報を掲載しておりますので、ぜひ御覧ください。

※日本語版は、当社ホームページの株主・投資家情報サイトから御覧いただけます。
www.lintec.co.jp/ir/library/annual

